

## 2019年度 多摩大学アジアダイナミズム研修プログラム 中国（天津・フフホト・北京）研修について

An Activity Report of the Educational Visit to China (Tianjin, Hohhot, Beijing)  
in Tama University Asia Dynamism Program 2019

○巴 特 尔\*      水盛 涼一\*（○代表、執筆者）  
Baatar                      Ryohichi MIZUMORI

**Keywords** : Asia Dynamism, Inner Mongolia, Hohhot, Tianjin, Beijing,  
Global Business

2019年9月1日～9月8日にかけて中国研修プログラムを実施したので、教育実践の内容と結果を以下の通りご報告します。

1. 実施期間：2019年9月1日（日）～9月8日（日）
2. 実施地：中国（天津市・内モンゴル自治区・北京市）
3. 参加者：バートル教授、水盛涼一准教授、多摩大学学部学生15名の計17名。
4. 本プログラムの実施背景・目的：

本学は、2003年に中国の天津财经大学と、2017年に内モンゴル師範大学と、それぞれ包括的な交流協定を締結し、交換留学生の派遣・受入れを中心とした交流を推進してきた。今後におけるより一層の双方向の交流を促進ことが重要との共通認識から今回は本学の学生が両大学を訪問し現地学生との直接的な交流を図ることで相互理解を深め、更に本学学生の両大学への交換留学を促すうえでも有益であるという考えから本プログラムを企画し実施した。同時に、本学が掲げる「アジアダイナミズムに真っ正面から向き合えるプロジェクトマネジメント人材」の育成方針を念頭に置きながら「グローバルビジネス入門」や「中国経済論」「アジア経済論」といったグローバル系の科目と連動しながら異文化理解、中国の総合理解に加え、学生の視点から今後における日中関係の在り方を考えるきっかけづくりも本プログラムの大きな目的である。

\* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

## 5. 活動内容

中国では、主に以下の活動を実施した（行程表をご参照されたい）。

- (1) 本学の協定校である天津财经大学と内モンゴル師範大学との交流活動
- (2) 天津とフフホト両市内の企業見学
- (3) 遊牧民草原生活の体験
- (4) 歴史・文化施設の見学

表1 中国研修プログラム行程表(9/1～9/8、北京・天津・内モンゴル)

月日	午前	午後	夕方
9月1日 (日)	・7:00羽田空港国際線ターミナル時計塔(富士)前集合 ・L21便9:05発⇒北京首都国際空港12:05着	移動: 案①北京首都空港⇒高速バスにて天津市へ(T3出口より天津行きのバスの切符を購入し、終点の天津西站客運站を降車。地下鉄1号線で「财经大站」駅で降車D出口より财经大キャンパスへ) 案②北京首都空港⇒北京南駅より新幹線にて天津市へ移動	天津财经大学交流センター寮泊(住所:天津市河西區珠江道25号)※レストラン「心園」があり。
		昼食(機内食)	夕食(天津市内)
9月2日 (月)	・9:30教室へ移動 ・10:00-11:30 講義「日本文学史と文学選読」(4年生の授業・L307教室) ※多摩大生発表の可能性あり	・13:20-14:50 講義「高級日本語」(3年生の授業・K205教室) ※多摩大生発表の可能性あり ・15:00～天津财经大学キャンパス視察	天津财经大学交流センター寮泊
	朝食(8:00学食)	昼食(学食)	夕食(学食)
9月3日 (火)	・8:00 専用車にてホテル出発 ・9:00-9:45 エアバスA320組立工場見学(住所:天津空港经济开发区九道2号) ・10:30-11:30 康師傅夢想樂園見学(住所:天津市滨海新区桂宁路218号)	・13:00-14:00 濱海文化中心・濱海圖書館見学(住所:天津市滨海新区旭升路347号) ・15:00-17:00 天津古文化街視察(住所:天津市南開区通北路与东马路交叉口) ・19:30-20:30 海河遊覧船乗船体験(乗船場所:天津古文化街碼頭)	天津财经大学交流センター寮泊
	朝食(未定)	昼食(市内、11:45-12:45)	夕食(17:30-18:30)
9月4日 (水)	・7:30集合:専用車にて天津濱海国際空港へ ・天津空港SC4717便9:20発⇒フフホト白塔空港10:50着	フフホト市内視察(綏遠城將軍衙署博物院、歴史博物館、慈燈寺、旧市街回廊区など)	博愛海航大酒店泊(住所:呼和浩特市賽罕区鄂爾多斯大街中段師範大学西南区)
	朝食(未定)	昼食(市内)	夕食(市内)
9月5日 (木)	・7:00 ホテルから内モンゴル師範大学盛楽キャンパスへ移動(住所:呼和浩特市和林格爾県盛楽经济开发区209国道側) ・8:20-10:00 内モンゴル師範大学学生との交流 ・10:20-12:00 内モンゴル師範大学学生との交流	・14:00-15:30 内モンゴル師範大学校史館・少数民族文学館見学 ・15:30 専用車にて内モンゴル師範大学本部へ移動(呼和浩特市賽罕区昭烏達路81号)	博愛海航大酒店泊
	朝食(ホテル)	昼食(11:30大学食堂)	夕食(市内レストラン)
9月6日 (金)	7:00 草原文化の体験(シャラムレン草原One Day)	16:00 乳業大手の伊利グループ見学(住所:呼和浩特市金山开发区金四道8号伊利乳都科技示范園)	博愛海航大酒店泊
	朝食(ホテル)	昼食(キャンプ地)	夕食
9月7日 (土)	・6:30専用車にて白塔空港へ向かう ・フフホト白塔空港CA112便8:25発⇒北京首都国際空港9:45着	北京市内視察(天安門広場・故宮博物院・国家博物館、天壇など)	北京東方花園飯店(Oriental Garden Hotel)泊(住所:中国北京东城区东直门南大街6号)
	朝食(ホテル)	昼食(北京市内)	夕食(北京市内)
9月8日 (日)	移動:12:00ホテルより北京首都国際空港へ向かう	移動:北京首都国際空港L22便16:20発⇒羽田国際空港20:55着 羽田空港到着後現地解散	
	朝食(ホテル)	機内食	

## 6. 活動結果

### (1) 訪問先:天津市(9月1日～4日)

#### ①天津财经大学との交流(学生発表討論会)

天津财经大学の学生との交流は、双方の学生が事前学修段階で準備した課題(それぞれの大学をはじめ、国の文化や歴史を紹介する発表)に基づいた合同発表討論会を実施した。日程の関係で一日のみの交流ではあったが、発表会後の自由討論では和気藹々とした雰囲気の中でも活発な議論が行われ、また若者らしく短時間で溶け込んでいる様子であった。





## ②天津市内の企業（エアバス、康師傅）見学

・天津エアバス組立工場：2008年にフランスのエアバスと天津港保税区、中国航空工業集団公司とのJV（共同事業）として開設された、エアバス A320の最終組立工場である。同工場は、仏トゥールーズ、独ハンブルクに続く3カ所目の拠点で、欧州以外では初めての施設として稼働している。2018年9月の開設10周年まで累計380機を生産。月産4機だったが、2019年に5機、2020年に6機と段階的に引き上げる予定で、現状生産された機体は中国国内の航空各社に供給しているが、今後海外の企業にも提供する予定である。

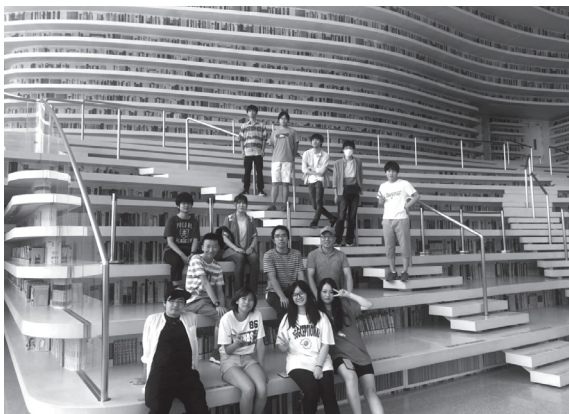
・康師傅：同社は台湾の大手食品企業である頂新グループの中国における現地法人で、1992年に中国に進出し、主の即席麺・飲料・菓子の生産・販売を行っている。2018年の売上高は前年比24%増の9,807億円、純利益は同35.4%増の398億円と増収増益となっている。なお、日本のサンヨー食品株式会社が同社に出



資しており日本企業とのビジネス関係も深い。

### ③歴史・文化施設の見学

・2017年に天津市濱海經濟開發区内に開館された「美しすぎる図書館」と言われている天津濱海新区図書館を見学。蔵書20万冊、近い将来120万冊まで拡大する予定。また、天津の古い町並みが見られる古文化街も散策し、同市の歴史的一側面を垣間見ることができた。



## (2) 訪問先：フフホト市（内モンゴル自治区、9月4日～6日）

### ①内モンゴル師範大学との交流活動（学生発表討論会）

同大学では、2年生と3年生の二つのクラスと交流を行った。天津財経大学同様、一日のみの交流を行ったが、発表会や自由討論会では教室内が熱気に包まれるほど盛り上がった。また、現地の学生たちは大学構内の諸施設の案内を親切かつ丁寧にして下さり、学生同士の距離がより一層縮まった感があり非常に楽しく交流することができた。





### ②フフホト市内企業（伊利グループ）見学

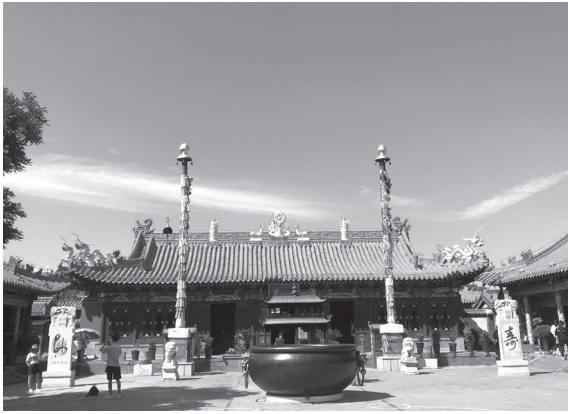
フフホト市内にある中国の乳業最大手の伊利グループの牛乳加工工場を見学。同グループは、2017年に営業収入が90億ドルに達し、世界第8位、アジア首位の乳業大手となった。2014年にオランダで研究開発センターを設立、2018年にはタイのアイスクリーム企業のChomthana社を買収するなど、近年海外へのビジネス展開に注力している。



### ③歴史・文化施設の見学

フフホト市内のチベット仏教寺院の大召寺を見学。同寺院は明の万暦7年（1579年）にモンゴルトメト部落の首領アルタン・ハンによって造営されたチベット仏教ゲルー派（黄教ともいう、現在のチベット仏教の主流派）の寺院で、フフホトの最初の寺院でもある。世界のモンゴル人口のマジョリティを占める内モンゴルにおいてモンゴルの歴史や文化に触れる貴重な体験となり、中国文化の多様化を理解するうえでも有益であった。





#### ④遊牧民草原生活の体験

フフホト市内から車で2時間あまりの距離にあるシラムレン草原において、モンゴルの遊牧民の生活（お茶・羊の料理、乗馬など）を体験した。このうち、乗馬体験は学生たちにとっては貴重な機会となった。



### (3) 訪問先：北京市（9月7日～8日）

#### ①故宮博物院

故宮博物院は、明・清両王朝の宮殿建築と宮廷収蔵を基礎として設立された歴史的文化的財を保存・展示する博物館である。紫禁城ともいう。2018年12月の米中首脳会談が開催された場所としても記憶に新しい。参加学生は中国の長い歴史の中で政治の中核だった場所を直で目に触れる機会となり、引率教員による解説のもとで理解を深めることができたのではないと思われる。



## ②雍和宮

清代に建てられた北京市最大のチベット仏教寺院。チベット仏教は清の支配民族である満洲族が伝統的に信仰していた宗教である。清の雍正帝が親王の位にあったときの邸宅であったが、のちに乾隆帝の時代になってからチベット仏教の寺院に改修された。同寺院の総面積は6万㎡超で満、蒙、漢、チベットの各文化圏の建築様式が織り交じった建築物が立ち並ぶ。建物の特徴がフフホト市内で見学した、同じくチベット仏教寺院である大召寺に非常に似ているのが特徴である。



## 7. 教育実践の成果と課題

(1) 事前・事後学修による教育的効果は顕著。

今回、研修の事前学修として、参加者を四つのチームに分け1つの班で2冊の中国関連書籍を精読し、読書感想文（1人あたりA4用紙3枚）を作成させるなどして訪問先に関する予備知識の修得と情報収集を行った。また、同時並行で現地での合同発表会向けの資料作成も行い、各班それぞれ15分の時間となるよう発表資料をパワーポイントでまとめ予行演習を実施。そして、事後学修として、今回の研修で学んだことや気づきを全員レポート（A4用紙2枚）にまとめたうえ、語学やグローバル系の講義内で海外研修体験報告会も実施し、本プログラムに参加していない学生たちへのフィードバックが海外研修や留学への関心を高める効果があった。

このように事前事後学修とフィールドワークを通じて参加学生の異文化理解、中国の総合理解の一助となったことが今回の研修の大きな成果といえよう。

(2) 協定校との直接的な交流は双方の学生の相互理解にとって有益。

今回は、初めての試みとして本学の協定校2校を同時期に訪問し交流を深めたが、本学からの参加者は本学に所属する学生として、また日本の大学生としての自覚をしっかりと持ち、現地での合同発表会や一連の交流・体験プログラムに積極的に取り組んでくれた。特に現地の同世代の大学生とは共通項が多い分、限られた時間のなかでも非常に自由で濃密な交流を図ることができた。今後同種のプログラムを企画する際に学生たちの要望やアイデアを積極的に取り入

れることは教育的効果を上げる観点からも非常に有益であると考えられる。

(3) 参加した学生の声を次のプログラムに活かすことが大事。

- ① 中国に行く前は空気が日本より少し悪いのではと思っていたのだが、実際現地へ行ってみると、空気は思っていたよりは良くて、住みやすい場所だと感じた。
- ② 日本や日本の文化についての捉え方が自分たちとは違うという新しい発見ができた。
- ③ 中国の特色や文化を知ると共に日本の良さを再確認できるプログラムとなった。
- ④ 本場の中華料理は辛さなど味付けが強かったのだが、慣れる度においしく感じた。また、人生初の草原での乗馬体験、現地の学生とのキャンパスツアーなどを通じて、日本とは異なる自然や文化を味わえることができてとても良かった。
- ⑤ 普段報道等でしか見ない所を直接見る事ができて感慨深かった。

(4) 今後の課題としては、交流プログラムに関する綿密な事前準備（教員だけでなく学生の意見や希望も踏まえる）、訪問先との共通の課題・テーマを軸とした学生同士の研究発表、現地の学生と共に行うアクティブラーニング活動、企業訪問は生産現場の見学のみならず企業関係者による講座の実施などが挙げられよう。